

**大学コンソーシアム富山 地域課題解決事業
平成31年度 地域課題提案書（新規・継続）**

自治体等名	砺波市	担当者	所属 農地林務課 氏名 道中 彩耶花 Tel 0763-33-1111（内線 413） E-mail sayaka.michinaka@city.tonami.lg.jp
地域課題名	屋敷林の実態調査と剪定枝（落葉）処理システムの確立（3か年継続事業の2年目）	事業費	300千円
地域課題の背景	<p>屋敷林を所有する戸数の調査は、合併前の平成15年度に行われたきりで、その後現在までの間に、台風での倒木や伐採により戸数は減少していると考えられるが、その正確な数を把握しておらず、市担当課としてその必要性を常々感じている。</p> <p>また、屋敷林を維持管理する悩みとして、スンバ（杉葉の落葉）や剪定枝の処理について十数年前から言われ続けているが、いまだ解決に至っておらず、今後高齢化により、ますます処理に苦慮する家庭が増加すると考えられる。</p>		
課題の概要	<p style="color: red;">（1）課題＝解決したい問題の説明、（2）その課題解決において自治体に取り組めること、（3）高等教育機関に求めたいこと、についてできるだけ具体的に記入願います）</p> <p>（1）課題 【戸数及び本数調査】 市内全域において、屋敷林を所有する家の戸数と、その本数を把握し、平成15年度の調査結果と比較しながら、戸数及び本数の増減、要因を明らかにする。</p> <p>【外観調査】 市内のモデル地域をいくつか選定し、過去（昭和～平成初期、平成15年度）に行われた調査による記録写真と比較しながら、景観の変化、その要因を明らかにする。</p> <p>【落葉調査】 1年間を通して落葉量を調査し、「砺波型」の剪定枝及び落葉の回収と処理システムを確立する。</p> <p>（2）自治体に取り組めること 【戸数及び本数調査、外観調査】 平成30年度（1年目）の調査で確立された屋敷林の実態調査のフォーマットや手法を活用しながら、市全域において屋敷林を所有する戸数、本数、外観の調査を実施し、とりまとめる。</p>		

	<p>(3) 高等教育機関に求めたいこと</p> <p>市民団体や地域住民と連携しながら、市全域での調査の実施（調査手法の指導等）に協力する。</p> <p>また、調査結果の分析や、過去の調査記録を比較することで、砺波市の散居景観の変化を明らかにし、今後の屋敷林の保全について必要な施策の提案を行う。</p>
事業実施に当たっての協働体制	<p>【自治体等の役割】</p> <p>資料提供、民間団体の紹介と連携、広報</p> <p>【高等教育機関の役割】</p> <p>調査、分析、研究、立案</p>
成果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・屋敷林実態調査結果報告書（仮称）を作成し、市民へ開示する。 ・散居景観保全事業や散居景観モデル事業において、事業内容の見直しや事業費算出等の参考とする。 ・屋敷林の更新や新たな植樹による屋敷林の形成を推進する。 ・行政や市民の経費負担を抑えた剪定枝、落葉の処理方法を確立する。

作成上の注意

1. 「事業費」欄は、高等教育機関に対し支出する金額を記入願います。
（自治体等からの事業費が、本事業実施経費の全額となります。）
2. 提案課題に関する詳細資料（秘密事項は除く）がある場合は、添付願います。
3. 提案課題が複数ある場合は、別様に記載願います。
4. 提案書は1ページに収める必要はありません。できるだけ具体的に記入願います。

（ご連絡先）

大学コンソーシアム富山事務局 中村
 TEL: 076(441)2455、FAX: 076(441)2456、E-mail :chiiki-kadai@consortium-toyama.jp
 HP:http://www.consortium-toyama.jp/local.html#solution